

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	22-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>The alcohol flushing response is associated with the risk of depression アルコールのフラッシング反応は、うつ病のリスクと関連している</p>		
執筆者		
Jeon S, Kang H, Cho I, Cho SI.		
掲載誌		
Sci Rep. 2022 Jul 22;12(1):12569. doi: 10.1038/s41598-022-16276-2.		
キーワード	PMID	
フラッシング反応、うつ病、韓国	35869160	
要 旨		
<p>目的：韓国の一般集団を対象に、フラッシング反応とうつ病のリスクとの関連を検討した。</p> <p>方法：2019年 Korean Community Health Survey (KCHS: 一般住民対象の横断研究) に参加した韓国の19歳以上(飲酒可能年齢)男女229,099人を対象とした。うち、現在の非飲酒者82,767人およびデータ欠損者6,952人を除外し、139,380人を解析対象とした。うつ病は、Patient Health Questionnaire-9を用い、過去2週間のうつ症状9項目について「全くない」から「ほとんど毎日」の4尺度で評価した。合計点が10点以上をうつ病とした。アルコールフラッシング反応は、自記式質問票により以下2点を尋ねた：(a)現在、ビール1杯程度ですぐ顔が赤くなるか(いいえ、時々、よく、いつも)、(b)飲酒開始から1~2年目に、ビール1杯程度で顔が赤くなったか(はい、いいえ)。(a)で「時々」「よく」「いつも」の回答者を"現在のフラッシャー"、(a)で「いいえ」かつ(b)で「はい」の回答者を"過去のフラッシャー"、(a)(b)ともに「いいえ」の回答者を"非フラッシャー"とした。ロジスティック回帰分析により、性別、年齢、家計収入、教育、喫煙、アルコール摂取量、飲酒開始年齢、節飲意志の調整オッズ比(AOR)および95%信頼区間(CI)を推定した。サブ解析として、アルコール摂取量(0-5、5-14.9、15.0-29.9、30g/日以上)による層別解析も実施した。</p> <p>結果："現在のフラッシャー"34.8%、"過去のフラッシャー"4.1%であった。"非フラッシャー"と比較して、"現在のフラッシャー"はうつ病リスクが高かった(AOR[95%CI]: 1.23[1.12-1.34])。アルコール摂取量では、0-5g/日と比較して、30g/日以上の上うつ病リスクが高かった(AOR[95%CI]: 1.60[1.35-1.89])。サブ解析では、アルコール摂取量15g/日未満において、"非フラッシャー"と比較して、"現在のフラッシャー"のうつ病リスクが高かった(0-5g/日: 1.20[1.07-1.35]、5-14.9g/日: 1.39[1.13-1.70])。</p> <p>結論：韓国人3分の1以上が現在フラッシング反応があり、彼らはフラッシングがない人より少量アルコール摂取(15g/日未満)でもうつ病の可能性が高いことが明らかとなった。</p>		